

高知大学農林海洋科学部・農学部
Faculty of Agriculture and Marine Science Kochi University

vol.
43

December
2021

後援会だより



ご挨拶



農林海洋科学部・農学部
後援会長

もりした よしとも
森下 祥朋

高知大学農林海洋科学部・農学部後援会会長を務めさせていただいております森下祥朋と申します。会員の皆様におかれましては、日頃より後援会の活動へのご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。保護者代表として微力ながら後援会の役員、事務局の皆様方とともに精一杯努めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくごお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、後援会活動も厳しい制約・条件下での展開を余儀なくされる状況が続いております。後援会総会も開催することができず、書面での決議となり皆様にはおおきなご負担とご迷惑をお掛けしております。コロナ禍において、社会全体の行動や移動が抑制され、経済の停滞が起り、先行きが読めないことが人々を不安にさせています。新しい生活様式を強いられ、学生の皆様においても生活や学業、就職等に大きな不安を抱えていることと思います。

後援会では、ご息子ご息女が充実した大学生活を送ることができるよう、教育研究支援、就職活動支援、文化生活支援等への援助ならびに可能な限り会員相互の親睦を図ってまいりたいと考えております。後援会がコロナ禍の状況の中で、これまでのような助成事業に取り組むことができるのか不安はありますが、支援できることから進めてまいります。後援会の会員の皆様のご支援がなければ成り立ちません。今後とも、何卒ご理解、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、会員の皆様とご家族のご健勝、ご多幸を心よりご祈念申し上げます。

学生への支援

課外活動、就職活動などを支援し、また、卒業記念品贈呈や卒業生祝賀会を行います。(コロナ禍の影響により中止や変更されているものがあります)



オンラインの拡充

- コロナ禍のオンラインによる授業や指導・相談の拡充(パソコン・周辺機器)



卒業記念

- 記念写真 ● 記念品
- 証書ホルダー ● 祝賀会



学生表彰

- 記念品
- 保健衛生
- 消毒エタノール等



課外活動支援

- スポーツ用品
(ラケット・ボール・シャトルなど)



就職活動支援

- 就職関係誌購入
- 就職活動ガイドブック作成
- 面接対策特訓セミナー講師謝金



その他

- 日章寮役員と学部長等の懇談会
(昼食弁当支弁)

事業運営

後援会事業などの運営に関することは、主に「役員会」、「総会」において計画・執行され、活動内容は「保護者会」や「後援会だより」において情報発信をしています。



年1回
後援会だより
発行



農林海洋科学部長
えだ しげ けい すけ
枝重 圭祐

農林海洋科学部・農学部後援会の皆様には、日頃より、学部・専攻の教育運営に多大なご協力とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、昨年から始まった新型コロナウイルスによる感染症の全国的な広がりにより、昨年に引き続き今年も卒業式・修了式と入学式のいずれも中止となりました。また、一学期後半から講義はほぼすべてリモートで実施せざるをえませんでした。学生らしい生活ができない状態が長期に続いており、特に1~2年生に対して申し訳なく思っております。また、今年度も、ご好評いただいていた保護者会については、同日開催予定であった物部キャンパス一日公開共々中止とさせていただきます。後援者の皆様にはご迷惑・ご心配をおかけして誠に心苦しく思っております。小学校、中学校あるいは高等学校と異なり、大学は全国から学生が集まっていますので、このような厳しい対策を取らざるを得なかったことをご容赦ください。しかしながら、全国的にコロナウイルス感染者が急激に減少していることから、10月7日に更新された「新型コロナウイルス感染拡大防止のための高知大学の活動指針」に従い、十分なコロナ対策のもと、順次対面での講義を再開しています。少しでも早く、ご子息・ご息女が平常の学生生活を送ることができるよう心より願っております。

今後とも何卒ご理解、ご協力を賜りますようお願い致します。

表彰 TOPIC

日本ベントス学会・日本プランクトン合同学会

学生優秀賞 受賞

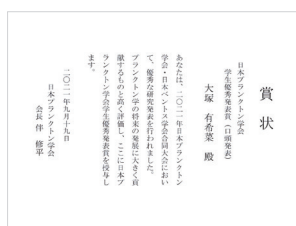
農林海洋科学専攻2年 おおつか ゆき な
大塚 有希菜



魚が引き起こす食中毒の原因を研究しています

海がとても好きで、せっかくなら豊かな海で研究したいと思って、高知大学に進学しました。いまは水族環境学研究室で、海に関わる食の安全や貢献について研究を進めています。テーマは南方の海の魚を食べて起こすシガテラ中毒。毒を作る微生物が魚の餌となる海藻の表面に付着していると考えられています。私はどの微生物が毒を作っているのかを研究しています。

賞をいただいたのは、メタバーコーディングという手法による実験に関するものです。この手法では、1つの試料に含まれている微生物は網羅的に見ることができますが、試料ごとの比較はできません。その欠点を解消するため、核酸をあらかじめ試料に添加することにより、従来はできなかった試料中の微生物の定量化に成功しました。学会で発表したとき、質疑応答ですごく反応があって、とてもうれしかったですね。



軟式野球部 キャプテン

全日本大学軟式野球 全国大会出場

農芸化学科3年 たかぎ そういち ろう
高木 崇一郎



ブロック大会を勝ち抜き、7年ぶりに全国大会へ

今年から土壌の研究室に所属し、卒業後は中学の理科教員を目指しています。中学まで野球をやっていて、大学でもう1回やりたいと思って軟式野球部に入りました。2年生の秋からキャプテンになり、監督はいないので、副キャプテンと一緒に練習メニューを考えていました。

春にブロック別のリーグ戦があり、例年、そこで負けたら3年生は引退し、勝ったら夏の全国大会に出場します。今年は四国大会で3位になりました。優勝チームが全国大会への出場権を得て、四国と中国大会の2位と3位がトーナメントをして、もう1枠の出場権を争います。ぼくたちはこのトーナメントを勝ち抜いて、中四国の最後の切符をゲットしました。残念ながら、全国大会では1回戦で敗退。しかし、出場できたのは7年ぶりの快挙とことで、ほくもビックリしました。新チームは旧チームのメンバーが中心なので、来年も!と期待しています。





1. 地元、隠岐の島に近くて 住みやすい街の市役所職員に



就職先／米子市役所

農林資源環境科学科 4年

ひさ なが よし ゆき
久永 祥之

■ 高知ならではの「よさこい」に熱中

日本海に浮かぶ島根県の離島、隠岐の島で生まれ育った久永祥之さん。中学卒業後に島を離れて松江市の高校に通い、故郷からさらに遠い高知大学に進学しました。「自然が豊富な場所で育ったことから、身近な生き物について学びたいと、農林資源環境科学科を選びました」と志望動機を明かします。3年生のときから、化学生態学の研究室でイネの根に寄生するオカボノアブラムシという昆虫について研究してきました。

生き物の研究に加えて、熱心に取り組んできたのはよさこい祭りです。初めて踊りを見たのは新入生歓迎会のとき。「すごく激しいパフォーマンスで、うわっ、やってみたい!と思って、すぐにサークルに入りました」と興奮気味に語ります。「よさこいチーム炎〜ほむら〜」の一員としてよさこい祭りに初参加した1年生の夏、2日間の最後に踊った競演場では「ああ、もう終わっちゃうんだと何とも言えない気持ちが湧き上がって、泣きながら踊っていました」と明かします。

2年生からは運営として全体をまとめる立場に。チームのみんなとの強い絆は、かけがえのない宝物になりました。



■ 一次試験に向けて1日6~7時間も勉強

就職活動については、民間企業は頭になく、ほぼ山陰地方の市役所職員一本で突き進みます。「地元の近くに帰りたいという気持ちが強く、そのためには公務員になるのが一番だと

思ったのです」と理由を語ります。公務員志望の学生は公務員講座を受ける場合が多いのですが、講座が開かれる朝倉キャンパスが遠いこともあって、独自に勉強する道を選択。参考書を購入し、一次試験の筆記突破を目指して、1日6~7時間の猛勉強に取り組みました。

エントリーシートの書き方や面接に向けては、学務室学生支援係がサポート。「特に面接の練習は何回もさせてもらい、話し方のニュアンスや言葉の選び方など、いろいろご指導いただきました」と感謝しています。加えて、米子市役所の職員をしているいところからも情報収集し、採用試験に向けて着々と準備を進めていきました。

■ 「住みたい」と思った米子の市役所へ

久永さんは当初、どの都市の市役所職員を目指すのか決めていなかったそうです。そうした時期、公務員採用に向けた学生対象の合同説明会に出席し、貴重なアドバイスをもらいました。「市役所の業務はどこもほぼ同じなので、どの街に住みたいかを考えて選ぶといいですよ、と言われたんです。なるほどなと思いました」とうなずきます。久永さんが選んだのは、隠岐の島航路の連絡船が発着する港に近く、魅力的な観光地があり、医療体制も整っていると思えた鳥取県米子市でした。

猛勉強が実を結び、第一志望の米子市役所の一次試験を突破。二次試験の面接では、よさこいで努力したことなどを熱弁し、無事に一般事務職としての採用が決まりました。「両親は受かればいいくらいに思っていたらしく、大喜びで、安心したと言っていました」と笑います。将来に向けては「米子はこれから観光面が面白そうなんです。その重要なスポットになりそうなのが米子城ですが、現在は周辺に木が生い茂っている状態。その開発にかかわることができたら、僕が学んだ化学生態学の知識を活かせるかもしれません」と胸を膨らませます。



島と行き来しやすいので
両親も喜んでます



就活
レポート

2. 大学で取り組んだ研究を すべて活かせる仕事に就きました



就職先／アグロ カネショウ株式会社

農芸化学科4年

おくはら きょうか
奥原 杏佳

「化学プラス農業」の学問を学びたい

奥原杏佳さんは宮城県出身。高校では理数科で学んでいた根っからの理系女子です。父親が種苗会社の研究職や開発に就いていることもあって、化学と農業を融合させた学問を学びたいと、農芸化学科を志望しました。3年生から有機化学の研究室に所属し、イネの害虫であるトビイロウンカを対象に研究しています。「なぜイネのみに卵を産むのか、原因となる生理活性物質を特定できれば、防除に役立つと考えています。物部キャンパスは設備がとても充実していて、最先端の分析機器を自由に使えます。入学して本当に良かったと思います」

サークル活動ではハンドボール部に所属し、実験で忙しくなる時期までは週2回、朝倉キャンパスで精力的に練習。四国インカレに高知県代表として出場しました。高知での暮らしも楽しみ、急流でラフティングをしたり、県南西部の柏島の美しい海で遊んだり、充実した日々を過ごしてきました。



化学系の研究職を目指して就職活動

「研究がしたくて大学に進学しました」という奥原さん。卒業後は化学系メーカーの研究職を目指して、就職活動を行いました。ひと口に化学系といっても、薬学や農業、食品、繊維など分野は様々。自分が働く姿を想像しながら、いろいろな企業のインターンシップに参加しました。けれども、準備をして臨んだ就職活動は、「わかっていたことですが、正直、すごく厳しいものでした」と振り返ります。というのも、研究職の募集枠の多くは修士以上で、そういった企業にはエントリーすらできないからです。

思うようにいかない就職活動のなか、奥原さんは自分が何をしたいのかが見えなくなっていきます。私は本当に研究がしたいのだろうか?とも思って、営業職にエントリーすることも。迷う奥原さんが頼ったのは、学生の就職活動をサポートする学務室学生支援係でした。「お話を聞いていただくうちに、やはり私は

研究がしたい。こう決断しました」と方向性を再確認。改めて、研究職を目指して就職活動に臨みました。

世界の食料問題を解決するのが夢!

奥原さんが就職を決めたのは、農薬メーカーの企業であるアグロカネショウ。「やって来た研究をすべて活かすことができます。コロナ禍での就職活動でしたが、オンラインでの就活だったので移動があまり必要でなく、研究と両立できたというメリットもありました」と笑顔で語ります。「これから人口増加に伴って、食料事情が悪化していくことでしょう。農業に利用できる土地や水資源には限りがあるので、単位面積当たりの収量増加を目指す必要があります。それを実現するのが農業です。また、今後の厳しい気候変動に対応していくためにも農業は必要です。世界で必要とされるような農薬の研究開発に携わることで、食料問題を解決していきたい。これが私の夢です」と目を輝かせました。

じつは、高知大学に進学したいと奥原さんから聞いた両親は、仙台から相当遠いこともあって、もろ手を上げて賛成はしなかったとか。しかし、そこで研究したいことがあると伝えると、応援してくれるようになったそうです。「高知大学への進学を決断できたのも、こうして1人で生活できるのも、両親の存在やサポートがあったおかげです」と奥原さんは深く感謝しています。



これからも研究に励んで、
新しい農業を開発したいです!



就活レポート 3. 高知の豊かな自然に魅せられ 有名アウトドアブランドに就職

就職先／株式会社モンベル

海洋資源科学科 4年

こまつ ふうた
小松 風太



釣り好きが高じて、魚を研究

千葉県のある自然の多い環境で生まれ育った小松風太さん。東日本大震災後奄美大島へ家族で移住し、亜熱帯の大自然に囲まれて過ごすうちに元々好きだった釣りにさらに夢中になっていきます。そこで、大学では魚のことを勉強してみたいと考え、海洋資源科学科への進学を決めました。

現在、取り組んでいるのは、魚の養殖とLEDライトに関する研究。「魚にLEDライトを当てると、魚の成長性が良くなるという研究があります。ほくはブリを対象に、どういう変化があるのかを調べているところです。また、LEDライトにも紫外線のように細菌やウイルスの活動を阻害する効果があるのか、という研究も行っています」

魚だけではなく工学にも興味があった小松さん。取り組んでいる研究は両者を絡めたもので、とても面白いと語ります。LEDに着目した研究は、所属する研究室でも初の試み。やればやるほど興味深いデータが出てきて、実験を続けるうちに、大学院に進んで継続すべき研究では？という気持ちが湧いてきたそうです。

就職活動は迷いのなかでスタート

小松さんは3年生のとき、大学院への進学も視野に入れ、迷いながらも就職活動をスタートすることにしました。どうすればいいかわからず、とりあえず学務室学生支援係へ。「自分の思いを聞いてもらう、悩み相談みたいな感じでした。話すうちに、本当はどうしたいのかが少しずつはっきりしてきて、具体的なアクションにつなげていきました」

当初の志望は工学系の職種でしたが、その一方でアウトドア系

の企業にも興味を持った小松さん。高知の豊かな自然に魅せられ、アウトドアで過ごすことが大好きになったからです。得意の釣りでは、幻の巨大魚として知られるアカメの虜に。ポイントである高知市の浦戸湾に何度も通った末、ついに98cmの大物を釣り上げました。釣りのほかにも、キャンプやカヌー、クライミングなどにもトライ。こうした経験により、アウトドア系の企業で仕事をしたいという思いが強まって



いきました。そしてエントリーしたのが、日本を代表するアウトドアブランドのモンベルでした。

最もじっくりくる企業に採用決定

就職活動の際、エントリーシートに力を入れて書き込んだのは、日本・インドネシア6大学による「SUIJI」の活動です。小松さんは1年生のときにインドネシアの農村に滞在。現地の学生と共に地域課題に取り組むなかで、自分が当たり前だと思っていたことがそうではなかったとわかり、価値観が広がったそうです。「モンベルのエントリーシートにはSUIJIの活動も含めて、自分の思うことがすらすら書けたんです。この会社が向いているんだらうな、と感じました」と小松さん。互いの波長がびたりと合って、就職はモンベルに決定しました。

「アウトドアブランドのなかにはアパレルメーカーの意味合いが強いところもありますが、モンベルは用具類に力を入れているところが気に入っています。SUIJIで経験したような社会活動やイベント開催にも積極的なので楽しみです。アウトドアのことをもっと経験し、知識を身につけていきたいですね」と小松さんは抱負を語ります。



「SUIJI」の活動は
得難い経験になりました





4. 大好きな高知で公務員になって 良さを全国にPRしたい!

就職先／高知県庁

農林海洋科学専攻 2年

おおくば さき
大久保 早季



「高知はいいところ」と後押しされて

生き物に詳しい祖父に可愛がられ、その影響で農学部への進学を志望した大久保早季さん。埼玉県出身ですが、関東圏には意外に農学部が少なく、どこを受験すればいいのか迷っていたところ、「祖父が高知に行ったことがあり、いいところだよ、のんびりしていてお前に合っているよ、と後押しされて高知大学を受験することにしました」

大学では動物生殖工学の研究室に所属し、現在、大学院の2年生。ゼブラフィッシュという魚の卵を対象に、凍結保存する際、どのような薬剤を添加すれば死なないのか、どういった仕組みで死んでしまうのか、といったことを研究しています。じつは魚の卵の凍結保存については、まだ成功例がないとのこと。「けっこうマイナーな研究なので、ほかの研究者の論文を探してもなかなか見つからない。参考文献を探すの

に苦労していて、修士論文で網羅するのは難しそうですが、一歩でも進められたらうれしいですね」と研究に対する思いを語ります。



将来の「自分」を探しに大学院へ

就職活動は大学4年生のときに試みたものの、企業研究などを行っても、自分の進みたい道がわからなかったそうです。「その時点では、将来のビジョンが見えなかったんです。どうしようかと悩んでいたら先輩が、大学院に進んで視野を広げてみてはどうかと伝えてくれて。両親と相談し、無理に就職しないで、大学

院で研究を続ける道を選びました」

実験の傍ら、自分の進む道を模索するうち、「私は高知が好き。ここなら一生住んでもいいな、と



思うようになりました」と大久保さん。では高知で何をするのかと考えたとき、大きなヒントとなったのが、大学3年のときに経験した高知県農業技術センターでのインターンシップ。「施設園芸のハウスに入ったり、農作物に触れたりすることがとてもしっくりきたんです。大好きな生き物に触れられる仕事ということでも興味を強くひかれ、自分がやりたいことに一番近いのかもしれない、と感じるものがありました」。この思いから、高知県庁の農業に関する技術職を目指すことを決意しました。

専門科目を猛勉強して難関突破!

公務員試験に挑戦することを決めて、大久保さんが一番不安を覚えたのは一次試験の筆記でした。研究室の枝重先生にアドバイスを求めると、「教養科目は苦手なところだけやればいい。配点の高い専門科目をとにかく勉強しなさい」とのこと。

大久保さんは、農業の専門科目の教本をひたすら勉強しました。その甲斐あって見事合格。「自分のなかでは一次の筆記が採用試験のクライマックスでした」と大久保さんは振り返ります。

仕事の内容は大学の研究とは大分異なりますが、「不安はありません。新しモノ好きなので大丈夫。早く仕事をしたいですね」と意欲を高めています。6年間過ごし、大好きになった高知県の良さを広めるお手伝いもしたいとのこと。「出身地の友人には、高知って四国のどこ?みたいな人もけっこういるんです。そういう人に高知はここだぞ、こんな良さがあるんだぞと、がんがアピールして、京都や沖縄、福岡レベルにまで有名になりたいですね」と前向きに力強く語ってくれました。

京都や沖縄レベルまで
高知の知名度を高めます!



より深い学びを求めて 大学院へ進学

まだ確立していない 海水分析方法を探求しています

大学受験のときに海洋関係を学べる大学を探していると、高知大学が農林海洋科学部に改組され、高知コアセンターも併設されていると知り、強く興味をひかれて志望しました。海底資源環境学コースで海底資源に関する地学や化学、物理学の基本的なことを学び、3年生からは研究室で海水の分析に重点を置いて研究しました。4年生の春、研究をまとめるにはあと1年では足りない確信し、大学院に進学することを決めました。

研究は植物プランクトンに必要な栄養塩が海水にどれほど含まれているのか、現場で測定することがメインです。JAMSTEC（国立研究開発法人 海洋研究開発機構）の学術研究船などに何度か乗船し、実際に航海に出て深いところから海水を採水して分析しました。船では最先端の研究に取り組む国内外の科学者たちに接することができ、とても勉強になりました。学部生のときは、がむしゃらに基礎からすべて学ぼうという気持ちが強かったのですが、大学院生になってからは自分の研究に必要な



農林海洋科学専攻 2年
みやもと ひろたか
宮本 洋好

もののみをピックアップして学ぶようにしています。誰もやったことがない、新しい分析方法を確立させようと模索しているので楽しいですよ。大学院に進んで良かったと思います。

博士課程に進むことも考えましたが、働きながら社会人ドクターを目指す道もあるのではないかと考え、就職することになりました。石油や天然ガスの開発、販売などを行う石油資源開発株式会社という大手の石油開発会社が就職先です。研究のなかで学んできた化学分析や機械開発に関するリスクアセスメントなど、仕事に活かせるところはたくさんあると思います。

大学院で学んだ生態学を活かし、 教員として環境教育を

中学の生物の授業で食物連鎖に興味を持ち、大学で生態学を学ぼうと進学しました。進化生態学を専門とする先生の研究室に所属し、生物の多様性や保全をテーマに研究し、院生の現在も続けています。学部生当時、将来は環境コンサルタントになりたいと思っていて、大学院に進学するつもりはなかったのですが、研究が面白くなったので、もう少し深く知りたいと大学院に進みました。

研究の対象にしている生物は、ビワコカタカイガラモドキというヨシにつく害虫です。もともと東アジアにいる虫ですが、近年、アメリカで大量発生し、ヨシを枯らせる要因の一つとして考えられています。日本では枯れさせることはないの、なぜなのか研究しています。1つは基礎的な調査で、虫が季節などによってどういった傾向で増えていくのか。2つ目は、この虫には寄生するハチが5種類いるのですが、それぞれの関係がどうなっているのか。3つ目は、野鳥に食べられることがわかっていて、これが虫に



農林海洋科学専攻 2年
まつもと いづみ
松本 いづみ

どのような影響を与えるのか、といったことです。いまのところ、ハチに寄生されても、虫は単為生殖でどんどん増えていくことがわかりました。おそらく、ハチよりも野鳥のほうが虫の抑制に役立っているのではないかと考えています。

修了後は高知県の清和女子中高等学校で理科の教員に就くことが決まりました。家庭教師のアルバイトや子どもたちと関わるボランティア活動などをするなかで、子どもたちと触れ合っていて、その変化を見るのが好きだということに気づいたからです。高知大学で学んだことを活かして、生徒たちに環境教育もしてみたいと考えています。



高知大学学章(シンボルマーク)

未来へ向かって飛躍し、希望に満ちた新生「高知大学」のインシャル「K」をモチーフに、青色で太平洋の波涛と黒潮を、空色で若者の可能性と大空とをそれぞれイメージし配色。躍動感あふれた新生「高知大学」を表しています。

表紙の写真は10月下旬に
物部キャンパスを撮影しました